

受賞者氏名	堀川 三郎	 ©撮影：木村元氏（桜美林大学）
所属	社会学部社会学科	
受賞年月日	2023 年 7 月 9 日	
国内・国外	国内	
授与機関等名称	観光学術学会	
受賞名	観光学術学会 教育・啓蒙著作賞	
受賞(研究)内容詳細	授賞対象＝木村至聖・森久聡編『社会学で読み解く文化遺産－新しい研究の視点とフィールド』新曜社，2020 年刊（共著者として受賞） あらゆるモノや文化が遺産と見なされ，保存の対象になっていくことを「遺産化」と呼ぶなら，すべてのモノが「遺産化」していく現在という時代はいかなる時代なのか，そして「文化遺産」とは何なのか，誰が，何を，なぜ「遺産化」していこうとするのか——本書はこの問いを基点として編まれた「遺産化」現象の社会学の，その最先端を示す論文集である。 観光学術学会がその講評において的確に要約したように，本書は『『文化遺産であること』から『文化遺産になる』プロセスに着目し，「その変化の過程や社会的影響，そして今後の可能性を描き出すことをねらいとしている」。そこでの中心的な検討課題は，言うまでもなく，「遺産化」のプロセスによって，社会の秩序や社会関係が，いかなる形で再編されていくのかであった。「社会学で読み解く」というフレーズが題名に含まれる所以である。 堀川三郎は「景観と保存——人々は何を取り戻したいのか」と題する章を執筆している。より具体的には，町並み保存運動とは，一体どのような運動であるのかの概説をしたうえで，保存の戦略と戦術を整理して論説した。町並み保存運動が単なるノスタルジーの運動ではなく，むしろ最も鋭利な現代都市計画批判運動であることを明らかにした。 なお，編者の一人・森久聡氏は堀川ゼミの第 1 期生で，学部から法政大学大学院社会学研究科の博士課程修了まで，一緒に研究をしてきた若き研究仲間であり，本学社会学部・武田俊輔教授とともに，何度も編集方針をめぐる議論を重ねてきただけに，本賞受賞には感慨深いものがある。	